

大阪府歯科保険医協会  
大阪府浪速区幸町1-2-33  
電話(06)6568-7731(代表)  
http://osk-net.org/  
●定価・年間10,000円 月1,000円  
●1977年5月23日第三種郵便物認可

安倍政権

# 社会保障費削減 鮮明に

政府内では2016年度予算案の議論が進められている。予算編成の柱となっているのは社会保障費のさらなる削減だ。そのしわ寄せを診療報酬改定にも求めようとしている。

## 来年度概算要求を閣議了解 診療報酬改定への影響必至

安倍内閣は7月24日、来年度予算編成の基本方針となる概算要求基準を了解した。高齢者の増加に伴う社会保障費の自然増が1兆円程度と言われるなか、政府が認めた社会保障費の増加額は6700億円。この方針に沿って厚労省は財務省に予算要求することになる。社会保障費の自然増を抑え込む手法は、小泉純一郎政権と重なる。かつて小泉首相は「毎年2200億円の自然増を削減する」として、国民に「痛み」を押し付ける「改革」を断行。その結果、診療報酬の連続マイナス改定をもたらした。「医療崩壊」や「介護難民」などの深刻な社会問題を引き起こした。

6月に決定した「骨太の方針2015」では社会保障費の伸びを年間5

### 中医協総会（7月22日）で示された 歯科診療報酬改定の課題と論点（要約）

#### 地域包括ケア（地域完結型医療）への対応の課題と論点

◇周術期口腔機能管理を実施した病院のうち、患者の「かかりつけ歯科診療所」と連携しているのは半数程度  
→周術期口腔機能管理における医療機関間（病院歯科と歯科診療所等）の連携についてどう考えるか

◇「かかりつけ歯科医」を選ぶ主な理由は「通勤・通学に便利」  
→地域包括ケアにおいて、主治の歯科医師の機能・役割についてどう考えるか

◇全身の疾患や特別な対応が必要な患者に関する算定件数が非常に少ない。また外来環の届出は12%にとどまる  
→（診療報酬上）評価及び外来環境の整備をどう考えるか

#### 口腔疾患、口腔機能低下への対応の課題と論点

◇咀嚼機能を含む口腔機能の検査方法、管理のあり方等の診療報酬上の評価に関しては十分でない  
→口腔機能の維持・向上（回復）の観点に着目した歯科治療について、どのような対応が考えられるか

◇歯周病安定期治療は中等度以上を対象としている  
◇近年、実質欠損のない初期う蝕は、適切な診断と管理で回復する可能性があるという考え方がでてきている  
→重症化予防の観点から、歯周病、う蝕等に対する歯科治療について、どのような対応が考えられるか

が、中央社会保険医療協議会では改定に向けた議論が進んでいる。7月22日の中医協総会では、歯科医療が議論された。厚労省は、団塊の世代が75歳を迎える2025年に向け、「歯の形態回復に加え、口腔機能の維持・回復の視点も含めた地域包括ケア（地域完結型医療）への対応」

を強調。論点の一つとして、地域包括ケアにおける「かかりつけ歯科医」の機能と役割を示した。また、口腔機能の維持・回復については、「咀嚼機能を含む口腔機能の検査方法、管理のあり方等の診療報酬上の評価に關しては十分でない」と問題提起した。改定内容の具体化はこれからだ

**サマーセミナー2015**  
8月30日(日) / M&Dホール

◇午前の部 (10:30~12:00)  
歯科技工問題の解決に向けて  
講師・政策部講師団

◇午後の部 (13:00~15:30)  
「平和国家」日本の再検討  
講師・古関彰一氏  
(獨協大学名誉教授)

※終日参加の場合は昼食をご用意します。要申し込み  
※参加無料

### 近畿連保 補綴の保険給付守ろう

## 歯科技工料問題で交流会

低すぎる歯科技工料金の解決に向けて、近畿各協会の連動経験を交流しようとして、「近畿歯科技工料問題交流会」が7月12日、大阪市内で開かれた。歯科医師、歯科技工士ら42人が参加した。保団連副会長・歯科代表の宇佐美宏氏が基調提案。宇佐美氏は技工士問

題改善の意義について、「保険給付されている補綴を守る運動に他ならない」と強調。技工士存続の危機は補綴給付の危機であることを技工士と歯科医師、国民が共有し、「保険で良い歯科医療」を国民の大運動にしようと呼びかけた。兵庫、大阪歯科の両協会が報告。技工士の雨松真希人氏（保険で良い歯科医療を兵庫連絡会は、歯科医師と技工士間で委託工料金の取引ルールの確立のために、▽原価計算に基づく診療報酬の決定、▽最低賃金、最低技工料の明確化などを提案した。また、大阪歯科協会の戸井逸美副理事長は、

外注技工料と最低賃金の関係に着目したアンケートを近畿ブロックとして行うことを提案した。討論では、「歯科医師が本当に歯科医療を守るべきとしているのか、技工士を必要としているのか危機感を持っているか（大阪・技工士）、「技工士は最低賃金をほるかに上回らないといけない」（奈良・歯科医師など）の意見が出された。馬場保団連副会長が閉会あいさつした。

# 脳裡に焼付く死体

## 未来へ伝える 戦後70年 ①

堺市・宮川 渉さん(82)



戦争体験を語る宮川 渉さん。7月10日の空襲では学校前の防空壕に爆弾が直撃し、寮生7人が亡くなった

夏は夜、カエルの鳴き声を聞くと1945年7月10日の空襲を思い出す。当時、私は12歳で府立農学校に通っていた。その日は警戒警報が出されていたが、何も起こらないまま、床に就いた。午前0時ごろだった。突然、「パンパン」という音が響いた。飛び起きると、筋向いの家が燃えている。破裂音は油脂爆弾(焼夷弾)が炸裂する音

だった。子爆弾が「ジャ」と落ちてくるなか、母と姉弟の4人で必死の思いで郊外へ走った。避難先の小学校の窓からは街が炎上する様子がよく見えた。カエルの鳴き声を耳にしながら、その恐ろしい光景を眺め続けていた。数日後に自宅跡へ戻る。一面焼け野原だった。環濠の橋の下に親子の焼死体があった。赤ん坊を抱きしめた母親の膝には、子どもがすがりついてたまま息こげになっていた。水に浸かった足首だけは肌色が残り、黒足袋を履いていた。おそろく男の子だろう。その姿が脳裡に焼き付いている。親子の死体は3日経っても放置されたままだった。その後丸太のようにトラックで回収していった。人間が人間として扱われない、それが戦争だ。マスコミは玉音放送が戦争を終結させた報道するが、誰が宣戦布告したのかは決して言わない。日本が犯した過ちを素直に受け止める歴史観

**今日の数字**  
**41.0%**  
「歯の病氣」を理由に受診した人の割合。2位は「高血圧」で20.0%。東京都調査から。

こそ必要ではないか。今年は戦後70年。安倍政権は憲法9条を踏みこじろうとしている。いま「反対」の意思を示さなければ、もし戦争が起った時に「あなたにもその責任がある」と言われても反論できなくなる。ダメなものダメだと声を上げよう。

先課題でなくなった。病原菌を媒介する蚊の知識が増えて、蚊による病気が激減して昆虫学者たちが引退したり、失業したり、政治家に転業したりしたら、去年には懐かしいデング熱が復活した。敵も生き物だから簡単に絶滅しない。夏休みが終わるとプールや海で罹ったトラコーマの児童が眼科の待合室からはみ出るほど押しかけたのも今は昔。眼科医の頑張りよりも水道や下水工事の予算拡充で眼科疾患が感染から老人性へとシフトしてきた。予防啓蒙活動よりも、肥満防止の低糖志向により、むし歯が減少した。長い歴史のスパンで見ると、人間は場当たり的に右往左往しているみたいだ。

**歯界**  
熱中症で搬送される人が多い。集中豪雨による被害も多発している。地球温暖化が叫ばれる前の夏の課題と言えは食中毒や、海水浴の水難事故、日本脳炎など時代によって問題点が変わる。人工肥料の普及で回虫もなくなり、結核も最優先課題でなくなった。病原菌を媒介する蚊の知識が増えて、蚊による病気が激減して昆虫学者たちが引退したり、失業したり、政治家に転業したりしたら、去年には懐かしいデング熱が復活した。敵も生き物だから簡単に絶滅しない。